

JA全厚連情報

(毎月 1 日 発行)

No.1119 2022 年 9 月 1 日

目 次

□ 財務会計の知識について研修 厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第 1 クール）をWEB開催	1
□ 受診者拡大に向けた取組みについて 健康管理厚生連活動推進検討会をWEB開催	3
□ 「コロナ禍における財政支援等にかかる緊急要望」を厚生労働大臣宛に提出 日赤等三団体病院協議会	5
 ・通信員だより	
医療資格取得者養成～体験談～（雄勝中央病院）	7
秋田県農村医学会第 124 回学術大会（一般財団法人秋田県農村医学会）	8
オープンキャンパス開催（白河厚生総合病院附属高等看護学院）	10
防火・防災訓練を開催（相模原協同病院）	11
「夏祭り」レクリエーションを開催（介護老人保健施設ほほえみの丘）	12
JA健康・福祉フォーラム 2022 を開催（JA神奈川県厚生連）	13
地域医療をともにつくる 第 61 回農村医学夏季大学講座（JA長野厚生連）	14
ISO15189 認定取得！（厚生連高岡病院）	16
オープンキャンパス開催（静岡県厚生連看護専門学校）	17
TAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）の第一症例を実施しました（豊田厚生病院）	18
松阪中央総合病院でドクターカーの運用開始（松阪中央総合病院）	19
クレーム対応研修を開催（JA三重厚生連）	20
看護師国家試験対策講座を開催（JA三重厚生連）	21
永年勤続表彰式を挙行（JA三重厚生連）	23



全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.ja-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

財務会計の知識について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEB開催

本会は7月20日、21日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEBで開催し、16厚生連から46名が参加した。

本研修会は、将来、病院・施設の運営および管理を担う事務職を対象に、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成23年度より開催している。なお、経営管理に必要な財務知識の理解を深めるとともに、実践での応用をめざし、基礎編（年間3クール）と応用編（年間2クール）に階層化して開催している。

研修会の形式は、講義・演習・グループディスカッションで構成し、基礎編第1クールでは、財務会計の知識をテーマに、①簿記の基礎、②貸借対照表の読み方、③損益計算書の読み方、④キャッシュフロー計算書の読み方、⑤財務諸表の読み方について研修を行った。

1日目は、簿記の基礎を中心に、貸借対照表と損益計算書の相互関係や、取引の仕訳処理や損益計算書・貸借対照表の読み方について演習を行った。

2日目は、キャッシュフロー計算書の読み方について、黒字倒産の実例をもとに、損益計算書だけでは企業の健全性は判断できないこと、キャッシュフロー計算書の各表示区分の持つ意味等、間接法によるキャッシュフロー計算書の作成について研修を行った。また、財務諸表の読み方について、グループに分かれてディスカッションを行い、各グループより報告を行った。

次回（基礎編第2クール）は、財務分析の知識をテーマに、10月27日、28日の開催を予定している。

1.決算書を理解する



© 2022. For information, courtesy DaiNippon Printing Co., Ltd.

JA全厚連 企画...

I03 茨城県 水戸協同...	JA全厚連 企画・研修グ...	H02 広島厚生連 本部...	F3 茨城県 JAとて 平本...
E04 愛知 稲沢厚生病院...	A05 徳島 本部 岡野貴大	A03 茨城 水戸協同...	F05 神奈川県 伊勢原...
J04 三重県厚生連 大...	B05 JA全厚連 三宮健太	Yoshimura Yoshiki	E01 長野北信羽生田晃...
F02 岐阜県 東濃厚生...	H5 福岡県 藤村健弘...	衛藤 真樹	秋田県 本所 佐々木...
A01 新潟県 長岡中央...	I 03 長野県 農林中央...	J2 北海道本部小林...	A02 山口 長門 井上...
D05 岐阜県 中...	D4 愛知県 海南病院...	C2 山口県 周東総合...	C03 長野 佐久総合...

研修の様子

受診者拡大に向けた取組みについて

健康管理厚生連活動推進検討会をWEB開催

本会は8月3日、5日の両日、健康管理厚生連を対象に「健康管理厚生連活動推進検討会」をWEBで開催した。検討会は2つのグループに分け、Aグループは6厚生連から12名、Bグループは6厚生連から9名が参加した。また、本検討会のアドバイザーとして社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷予防検診センター事務長・池田 孝行氏が両日程とも参加した。

本検討会は、健康管理厚生連における健康増進活動の課題を解決することを目的に、「受診者拡大に向けた取組み（事業推進先別取組み）」をテーマとし、PDCAサイクルを活用し、対応策の立案・取組みの追跡・評価を8月と12月の2回に分けて開催している。

今回開催した第1回目の検討会では、各厚生連が「①令和3年度に取り組んだ内容・課題・課題認識後の取組み・取組み結果と評価」、「②令和4年度の事業方針・取組み・取組みへの注力度・取組み状況」について報告し、報告後に①・②の取組みの課題等について、他厚生連や池田アドバイザーから意見・助言を受け、今後の取組みに反映させる。

検討会の最後では、協議をもとに、各厚生連から新たな方策を発表し、12月の検討会に向けて取り組んでいくこととした。

参加者からは、「他県厚生連の取組み状況や課題などが聞ける貴重な場だった」、「人間ドックの推進方法について、勉強になった」といった意見があった。また、池田アドバイザーについて「新しい情報があり、共通の課題について意見を交換できたことが有意義であった」などの意見があった。

12月に行われる2回目の検討会では、各厚生連から新たな取組みについて報告があり、成功要因・失敗要因について評価、改善を行うこととしている。



第1回目 A グループの検討会 WEB での様子(8月3日)



第1回目 B グループの検討会 WEB での様子(8月5日)

「コロナ禍における財政支援等にかかる緊急要望」 を厚生労働大臣宛に提出

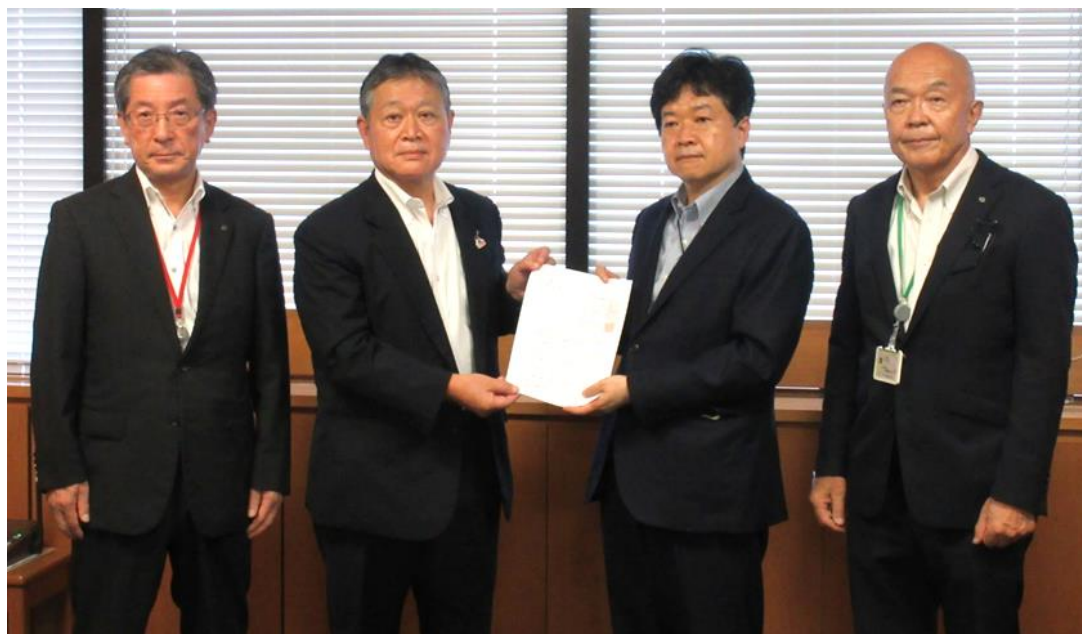
日赤等三団体病院協議会

本会、日本赤十字社、社会福祉法人恩賜財団済生会で構成する「日赤等三団体病院協議会」は、8月9日に厚生労働大臣宛に「コロナ禍における財政支援等にかかる緊急要望」を提出した。

日赤等三団体の病院は、今般のコロナ禍において、感染症患者の受入れに加え、ワクチン接種への協力や沖縄県等への看護師派遣など、公的医療機関として積極的に対応している一方、患者数はコロナ禍前の水準までは回復しておらず、医業収支は依然として厳しい状況にある。

令和4年度においても変異株の感染発生など収束の目途が立たない中、経営支援のための措置が本年9月末までとなっていることに加え、急激な物価高騰が病院経営に及ぼす影響についても懸念されることから、今回要望を行った。

具体的な要望内容は次ページのとおり。



左から渡部洋一・日赤医療事業推進本部長、中村純誠・本会代表理事理事長、
大島一博・厚労省事務次官、松原 了・済生会理事

1. 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金について、令和4年10月以降も継続すること。
2. 光熱費、食材費、医療機器・資材等の高騰に対する医療機関への支援について、地方創生臨時交付金の活用だけでは自治体の判断に委ねられ不十分であるため、緊急の別途財政支援を行うこと。
また、医療機器・資材の不足により国民に医療を提供できなくなる事態を招かないよう必要な確保対策を講じること。
3. 政府においては、都道府県と医療機関との間で新興感染症等に対応する病床確保に関する協定を結び、感染症危機発生時には協定に従い医療を提供することが検討されているが、医療関係者と丁寧に調整し、検討を進めること。
さらに、余裕病床を確保しながらの運営になることから、病院を安定的に経営できるよう診療報酬の設定等を含めて十分な財政支援を行うこと。
4. 今般の感染症対策により進んだ医療における ICT 等の活用をさらに加速させるため、医療機関が進めるデジタル化について、電子カルテの標準化やサイバーセキュリティ対策を含め、国として支援すること。



医療資格取得者養成～体験談～

(JA秋田厚生連・雄勝中央病院)

当会では地域の中核的医療機関として専門的な知識・技術習得の支援を行っています。令和3年度に制度を利用し、助産師資格を取得した方の体験談をご紹介します。

「寄り添える助産師を目指して」 松井麻美子

私は、看護師の経験を経て、今年度より助産師として勤務しています。助産師を目指したきっかけは、産婦人科病棟での勤務経験でした。命の誕生に立ち合い、共に泣いたり笑ったりしながら関わる中で、生命の誕生を手助けする助産の仕事がしたいと思うようになりました。そして、同僚助産師のいつでも真摯に妊産婦へ向き合う姿勢を間近でみながら、助産師という職業への誇りを感じ、その意思や関わり方を継承していきたいと思うようになりました。

その思いを胸に、昨年度秋田県立衛生看護学院助産科へ入学しました。久しぶりの学校生活に不安や戸惑いもありましたが、共に高めあった同期である学生達やいつでも親身になり支えてくれた先生方のおかげで1年間の学校生活や実習、国家試験を無事に乗り切る事ができました。学生生活の中で印象に残っている事は、妊娠期から出産・産後のケアまで、一人の妊産婦さんを受け持った継続事例です。関わりの中では、その人の妊娠や子どもに対する思いを共感し寄り添う事、その人が望む出産や子育てのためのケアを実践する事の大切さを学びました。そして、その事がより良い妊娠期、出産、そして育児に繋がっている事を実感しました。

助産師になった今、知識、技術の学びを深めながらも、一人ひとりに合わせたケアを行い、その人にとってより良い出産、育児が出来る様、寄り添いながら関わっていききたいと思います。



(右下) 松井麻美子さん

(三浦由佳通信員)

秋田県農村医学会第 124 回学術大会 学術研究を通して地域医療・保健・福祉を考える

（JA秋田厚生連・一般財団法人秋田県農村医学会）

7月9日、秋田県JAビルにおいて、秋田県農村医学会第124回学術大会（学術大会会長 三浦雅人・大曲厚生医療センター院長）を3年ぶりに開催しました。2023年10月19日、20日に第72回日本農村医学会学術総会が北秋田市民病院の神谷彰院長を会長として秋田市で開催されることが決定していることから、このたびの学術大会は「コロナ禍の秋農医2022。来年の日農医に向けて」をテーマとしました。

学術大会には、秋田県厚生連の職員、県内医療関係者、一般会員等、約480名が参加し、医療・保健・福祉の質の向上を目的に、幅広い分野から研究発表が行われ、メイン会場の大ホールでは、学会賞講演、特別講演を行うとともに、63題の会員講演（一般演題）はメイン会場を含む4会場に分かれて実施しました。今回は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するため、会員総会等中止しましたが、新たに入職6年以内の職員が看護研究を発表するセッションを設けるなど講演主体に行いました。また、令和2年度秋田県農村医学会学術奨励賞を受賞した、能代厚生医療センター 看護主任・渡部幹子さんの学会賞講演も行われました。



秋田県農村医学会第124回学術大会 会場の様子

特別講演では、日本農村医学会理事長・新潟県厚生連佐渡総合病院病院長の佐藤賢治先生から『超少子高齢社会における社会保障体制を考える～佐渡の取り組みと課題～』をテーマに講演していただきました。会場は、ほぼ満席の盛況の中、地域医療構想を踏まえた新潟医療圏（88 万人）の人口・入院外来数予測及び医療需要の現状と予測、機能分担の検討に必要なデータとプロセスの重要性など多岐にわたる内容も紹介いただきました。

また、同様に秋田県の分析もされており、少子高齢化社会における今後の医療体制と病院の役割について考える機会となりました。さらに、佐渡の人口推移を予測し、限られた医療資源を活用して医療機能の分担と連携を図り、10 年後も佐渡の社会保障が存続できる対策を講じる必要性、電子カルテの有無・施設規模を問わない医療・介護福祉事業者での双方向情報共有基盤（クラウドシステム）「さどひまわりネット」による患者情報の共有等について、わかりやすく説明していただきました。会場の誰もが真剣な眼差しで深く聞き入る姿勢に関心の高さを感じました。

最後に、学術大会にご参加いただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。

（三浦由佳通信員）

オープンキャンパス開催

(J A福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院)

J A福島厚生連白河厚生総合病院附属高等看護学院(前原和平学院長)では、7月24日にオープンキャンパスを開催し、学生約50名、保護者約30名の参加を得て終了しました。急激なコロナウイルス感染者数の増加に伴い、看護体験等は実施せず、学校説明会のみの開催とし、会場を4会場に分けて実施しました。

前原和平学院長のあいさつに続き、教員より学校の紹介および令和5年度入試概要の説明が行われました。その後、動画にて看護学生より学院での授業や実習、看護学生の一日紹介、校歌の披露、実習で感じた心に残るエピソードの発表などがありました。進学相談会においては、教員に熱心に話を聞く、参加者の姿が見られました。

参加された方からは、「実際に先生方と先輩方の一生懸命な姿を見て、この環境で学びたいと思った。」「説明を聞いて、改めて看護師になりたいと思ったので、受験に向けて頑張りたい。」などの声が聞かれました。



熱心に説明を聞く参加者たち

(佐藤剛通信員)

防火・防災訓練を開催

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和4年6月21日に相模原協同病院（井關治和病院長）は、令和4年度防火・防災訓練を開催しました。

今回は夜間に震度5強の地震が発生し、火災が発生したという想定で行いました。すぐに災害対策本部が設置され、病棟ではリーダー看護師が積極的に大きな声で指示を出し、初期消火に取り組みました。寝たきりの患者役スタッフをシートにくるみ運ぶ訓練や、屋外で消火器の取り扱いの訓練を行いました。



災害対策本部を設置



リーダー看護師へ報告



担送訓練



消火器訓練

(新嶋友梨恵通信員)

「夏祭り」レクリエーションを開催

(JA神奈川県厚生連・介護老人保健施設ほほえみの丘)

介護老人保健施設ほほえみの丘（蒔田知美施設長）は、新型コロナウイルス流行の現状を鑑み、今年も利用者様のみで、夏祭りを開催しました。

「スイカ割り」を楽しんでいただき、おやつには「焼きそば」「たこ焼き」など召し上がっていただきました。「スイカ割り、楽しかった!」「やきそば美味しいね〜♪」など、皆さんニコニコ笑顔で、楽しいひと時を過ごしていました。

利用者様に「夏祭り」の雰囲気を少しでも感じていただけたようで、スタッフ一同、嬉しく思います。これからも利用者様に喜んでいただける企画を実行して参ります。



スイカ割りの様子



おやつの時間に提供した焼きそば

(新嶋友梨恵通信員)

J A 健康・福祉フォーラム 2022 を開催

(J A 神奈川県厚生連)

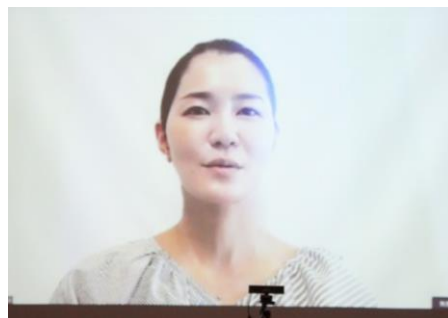
J A 神奈川県厚生連 (高野靖悟・代表理事理事長) は、令和 4 年 7 月 8 日、「 J A 健康・福祉フォーラム 2022 」をオンライン開催 (一部現地開催) しました。

このフォーラムは、 J A グループ神奈川が取り組んでいる「 J A 健康寿命 100 歳プロジェクト」活動の一環として毎年開催しています。

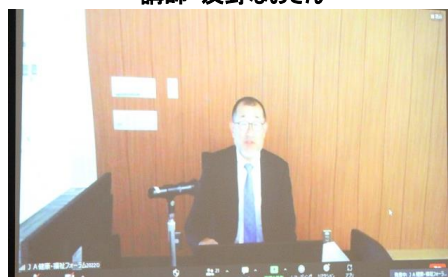
当日は大川良一会長からの開会の挨拶からはじまり、その後、睡眠コンサルタントとして活躍されている株式会社 SEA Trinity 代表取締役・友野なおさんを講師にお迎えし「睡眠で予約する未来の健康～睡眠の質＝健康の質～」と題し講演いただきました。続いて、伊勢原協同病院長・鎌田修博先生より「ご存じですか？ロコモティブシンドローム (ロコモ) の実際」と題し講演が行われました。

そして、当会保健師 3 名により「 J A アイマスキマ体操」をテーマに講話と軽体操の紹介を行い、最後に高野理事長から閉会の挨拶があり、大盛況のうちにフォーラムは終了しました。

健康長寿のため、すぐに実践できるような内容が多く参加者からも好評でした。



講師 友野なおさん



伊勢原協同病院長 鎌田修博先生



当会保健師3名



体操の様子

(新嶋友梨恵通信員)

地域医療をともにつくる 第 61 回農村医学夏季大学講座

(J A長野厚生連)

J A長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は7月9日、10日の両日、第61回農村医学夏季大学講座を、佐久市臼田のJ A長野厚生連佐久総合病院農村保健教育ホールにて、昨年に引き続きオンラインによるハイブリッド形式にて開講しました。今年は「地域医療をともにつくる」をメインテーマに、「COVID-19後の地域医療構想を考える」をサブテーマに掲げました。

1日目は若月賞受賞講演を含め全3講演が行なわれ、2日目は講演と講師らによるシンポジウムを行ないました。第30回若月賞授賞式では、東御市立みまき温泉診療所顧問の倉澤隆平氏、沖縄大学名誉教授の櫻井國俊氏が受賞されました。両氏による若月賞受賞者講演として、倉澤氏からは「【長野県国保の地域医療の種】と【亜鉛欠乏症の臨床の芽】とが残った。」をテーマに講演いただきました。「亜鉛欠乏症には多くの一般症状があり気づきにくい」「原因不明の食欲不振はまず亜鉛欠乏症を疑え」医師としての経験、研究を亜鉛欠乏症という一疾病に目を向けた講演でした。

櫻井氏からは「生活環境の改善を目指して～衛生工学者として歩んだ50年～」をテーマに、沖縄県の自然環境、生活環境の保全のために最前線で活動されている経験を講演いただきました。沖縄県のPFAS問題をはじめ昨今の日本政府について取り上げた講演に、多くの方々が立ち向かっている国家規模の課題が多くあることを考えさせられました。



シンポジウムの様子

また、JA新潟厚生連村上総合病院院長の林達彦氏からは「医師偏在指数全国最下位の新潟県で、持続可能な医療体制は構築できるのか？」をテーマに、新潟県村上市の医療体制と佐久地域を紐づけ、講演いただきました。医師不足を乗り越えるための様々な工夫は我々医療従事者にとっても非常に参考になり、見事な戦略に感銘を受けました。

2日目は、長野市保健所長の小林良清氏による講演が行なわれました。小林氏からは「医療政策の動向からこれからの地域医療を考える」をテーマに、医療政策の専門家として保健所長ならではの視点、保有するデータを活用し講演いただきました。2025年問題を目前にした今、「治す」医療から「支える」医療にシフトする体制を整えるなど、地域医療構想の本質について説明いただきました。

本講座の締めくくりとして「地域医療をともにつくる～COVID-19後の地域医療構想を考える～」をテーマにシンポジウムが行なわれました。1日目講師の林氏、2日目講師の小林氏に加え、長野県社会福祉協議会会長の藤原忠彦氏、多津衛民芸館長NPO法人未来工房もちづき理事長の吉川徹氏をシンポジストに、来場者からの質問に応じていただき、地域医療について深く考えることができました。

昨年に引き続き、万全の感染防止対策を講じながら、ハイブリッド方式による来場者と視聴者が一体となった講座となり成功裡に終了することができました。コロナ禍により少なからず日常生活に制限を受ける中で、多くの地域住民の方々とともに講師先生方の貴重な講演に耳を傾けることができましたことを大変喜ばしく考えております。



会場の様子

(山岸愛通信員)

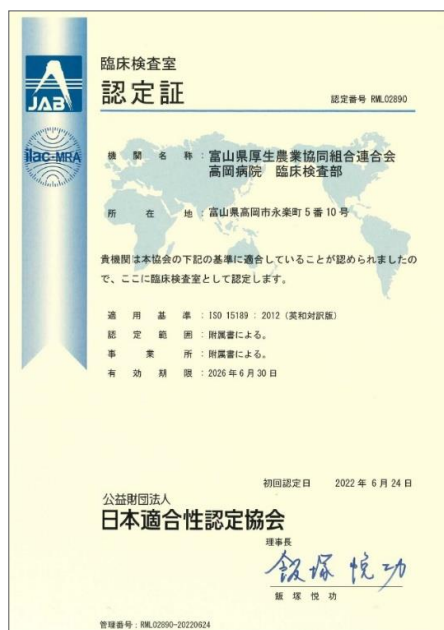
ISO15189 認定取得！

（JA 富山厚生連・厚生連高岡病院）

厚生連高岡病院（寺田光宏病院長）では令和4年6月24日付けで、検体検査、生理検査、病理診断の3部門全てにおいて、国際標準規格：ISO15189の認定を受けました。取得には、非常に多くの厳しい要求事項を満たす必要があり、令和2年8月から1年10ヶ月、紆余曲折の日々を乗り越えようやく認定の取得に至りました。臨床検査部要員に加え病理診断科の先生方のご協力のもと、一致団結して目標に達し得たことは、何にも代えがたい大きな達成感を感じることができました。



受領した認定証を囲んでスタッフ一同記念撮影



令和4年7月11日
ようやく念願の認定証が届きました！



認定シンボル

国際標準規格：ISO15189 の更新は4年毎ですが、認定取得後も毎年のように定期サーベイランスと呼ばれる審査があります。規格要求事項を満たさないところがあれば是正処置が必要となります。気を緩めることなく継続的な業務の改善を行い、質の高い検査データを提供していきます。

（中西康志通信員）

オープンキャンパス開催

(J A 静岡厚生連・静岡県厚生連看護専門学校)

J A 静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）の運営する静岡県厚生連看護専門学校（藤田美保子学校長）では、8月初旬にオープンキャンパスを3年ぶりに開催しました。

感染症対策として規模を縮小しての開催となったが、2日間で約 80 名が参加しました。

グループごとに分かれ血圧測定・手洗い体験・小児実習体験や在校生から学校生活の話を聞きました。参加者は「在校生から学校での学習内容や学校生活の話を聞けて良かった」と話しました。

オープンキャンパスは看護専門学校への進学を希望する高校生らに、入学後の学校生活に具体的なイメージを持ってもらい、進路の決定に役立ててもらう目的で開催しています。



オープンキャンパスの様子

(望月俊宏通信員)

TAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）の 第一症例を実施しました

（JA愛知厚生連・豊田厚生病院）

豊田厚生病院（服部直樹病院長）では7月15日、TAVI（タビ）の第一症例を実施しました。TAVIは、大動脈弁狭窄症に対する治療法で、カテーテルで折りたたまれた人工弁を悪くなった大動脈弁まで運んで広げます。傷は小さく心臓を止めることなく治療が可能で、患者さんへの負担が小さくなり入院期間の短縮につながります。

豊田厚生病院のホームページ「DOCTOR'S INTERVIEW」ページで、ハイブリッド手術室～大動脈弁狭窄症の低侵襲治療「TAVI（タビ）」について詳しく解説しています。ぜひご覧ください。

<https://toyota.jaaikosei.or.jp/frontier/tavi/index.html>



ハートチームと呼ばれる多職種合同チームで治療を行います



1月に導入したハイブリッド手術室で手術を行っています

（井桁千聡通信員）

松阪中央総合病院でドクターカーの運用開始

(J A 三重厚生連 ・ 松阪中央総合病院)

松阪中央総合病院（田端正己病院長）では8月からドクターカーの運用を開始しました。

三重県ではドクターヘリが 2012 年から運用されていますが、ドクターカーの運用は県内で初めてのケースとなります。

医師・看護師が、病院から救急現場にいち早く駆けつけ、救命処置・初期治療を開始することにより、救命率の向上や後遺症の軽減が期待されています。

8月2日には運用開始記念式典を開き、病院関係者のほか、松阪地区広域消防組合管理者の竹上正人松阪市長、三重大学救命救急・総合集中治療センターの今井寛教授のほか消防関係者、市役所職員が集まり、松阪中央総合病院の救急医療に対する期待の声が寄せられました。

また、救急センター前で公開模擬訓練を行いました。



全共連の支援を受けて整備したドクターカー

松阪中央総合病院ドクターカー運用開始記念式典



田端院長挨拶



模擬訓練の様子

(教来石信彦通信員)

クレーム対応研修を開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では7月28日、本部での集合研修と各事業所でのWEB受講により、全職員を対象（伝達講習を含む）として、クレーム対応研修を開催しました。

講師は本会顧問弁護士の法律事務所から招き、暴言・暴力等を回避するため、モンスターペイシエントやクレーム・トラブルに有用な手順・対応について、具体的な対応例をもとに医療現場におけるクレーム対応の講義を受けました。

参加者からは「実際の現場での対応事例をふまえた説明で、分かり易かった」「クレームに対しては、初期対応が重要で、丁寧に、毅然と対応することが必要であると分かった」といった声が聞かれました。

医療従事者が、患者や家族との深刻なトラブルに巻き込まれ、凶悪犯罪の犠牲になる事案が全国で相次いでいます。本会では、真に必要な医療や支援の提供を目指し、コンプライアンス体制確立の観点から、法的措置の利用も含めた具体的対応策の構築を推し進めていきたいと考えています。



クレーム対応研修風景

(教来石信彦通信員)

看護師国家試験対策講座を開催

(J A三重厚生連)

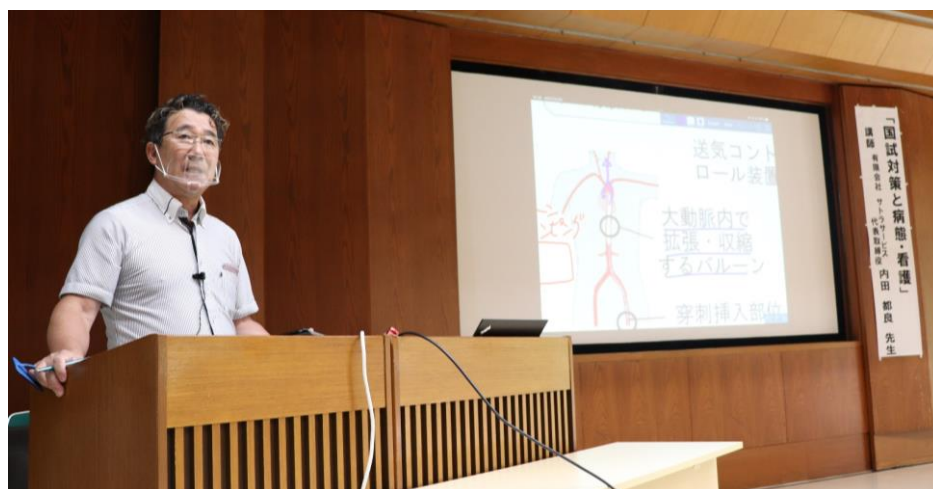
J A三重厚生連(庄山隆裕・代表理事理事長)では8月7日・11日の2日間、看護師国家試験対策講座を開催しました。

対象者は、本会の採用試験内定者、看護師奨学資金貸与者のほか、2024年3月の卒業予定者で、両日あわせて80名の参加がありました。

外部講師を招き、国家試験の領域別に出題傾向やその解説などの講義を受けました。

参加者は真剣な表情で取り組む姿が見られ、「“なぜか”という部分が理解できた」、「これまで学習してきた内容と結びついた」といった声が聞かれました。

看護師国家試験の合格に向け、今後の学習に期待しています。



講師



感染対策をして開催

三重県厚生連主催

国家試験対策講座

事前申込要
両日とも
80名様
まで



講師：有限会社サトラサービス
代表取締役 **内田 都良** 先生

第1回

国試対策テーマ

消化器・栄養・代謝系

2022年 **8月7日** 日

第2回

国試対策テーマ

腎・体液・循環器系

2022年 **8月11日** 祝

開催時間 ※両日とも

12:40～ : 受付

13:00～17:00 : 国試対策講座

新採用者 入職病院

松阪中央総合病院・鈴鹿中央総合病院
三重北医療センター 菰野厚生病院
三重北医療センター いなべ総合病院
鈴鹿厚生病院



参加対象

- ✓ 三重県厚生連の採用試験内定者
- ✓ 三重県厚生連奨学金貸与者
- ✓ 三重県厚生連採用試験の受験を
考えている方（2024年3月卒業）

会場

JA三重ビル 5F大会議室
(三重県津市栄町1丁目960番地)



※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に講じ開催
いたします。当日は必ず**マスク着用**をお願いします。

お申込みは開催日の**3日前までに**ホームページのイベント申込みフォームから
必ずご予約をお願いします。 ※申込み人数に達した場合は受付を終了いたします。

お申し込み・
お問い合わせ先

三重県厚生農業協同組合連合会 管理部・看護担当

TEL: 059-229-9203 Mail: hnb_kango@miekosei.or.jp

【開催当日の緊急連絡先】080-8264-3600



国試対策講座-R4 年夏チラシ

(教来石信彦通信員)

永年勤続表彰式を挙行

(J A 三重厚生連)

J A 三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、恒例の永年勤続表彰を各事業所において挙行し、今年度は勤続 30 年表彰 12 名、勤続 20 年表彰 39 名、勤続 10 年表彰 62 名が対象となりました。

コロナ禍前は勤続 30 年・20 年表彰対象者が一堂に会し、表彰式ならびに懇談会を開催しておりましたが、この 2 年間は中止を余儀なくされていました。

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていた 6 月までは、3 年ぶりに全体での表彰式を執り行う予定としていましたが、7 月に入り感染急拡大の状況を踏まえ、やむなく各事業所での表彰に変更しました。

なかなか先の見通せない状況が続いていますが、長年にわたり精勤していただいた皆さんに心から感謝申し上げます。



永年勤続表彰(本部)



永年勤続表彰(松阪 30 年)



永年勤続表彰(松阪 20 年)



永年勤続表彰(松阪 10 年)



永年勤続表彰(鈴中)



永年勤続表彰(菟野)



永年勤続表彰(いなべ)



永年勤続表彰(大台)



永年勤続表彰(南島)



永年勤続表彰(鈴鹿厚生)

(教来石信彦通信員)